感染症週報

令和7年9月8日発行

小笠原での流行状況

第36週（ 9月1日 から 9月7日まで）

父島　感染性胃腸炎、COVID-19の報告がありました。

母島　COVID-19の報告がありました。

※　５例以上発生時に実数報告としています

東京都全体での流行状況

第35週（8月25日～8月31日）

【警報・注意報】

なし

【ピックアップ】

★高い水準を維持しています

・百日咳

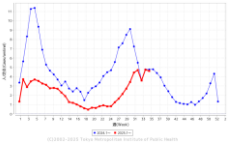
（累計報告数　5,483例）

★増加しています

・新型コロナウイルス感染症

（定点患者報告数　4.63 ）

まだまだ注意が必要です



・RSウイルス感染症

（定点患者報告数　1.21）

地球温暖化と感染症

気候が変わると、病気も変わる！

地球温暖化により、世界の平均気温は上昇し続けています。特に日本では、世界平均よりも速いペースで気温が上がっています。大気中の二酸化炭素濃度は100年前の約1.4倍となる420ppmを超え、観測史上最高を記録しました。海面は1900年ごろから約20cm上昇し、猛暑や豪雨などの極端な天候も増えています。

食中毒のリスクが増える

一般的な食中毒菌が最も増殖する温度は30～37℃。気温の上昇で今まで夏に多かった食中毒が春や秋にも拡大していく恐れがあります。

感染症媒介生物の活動が変わる

マダニや蚊が活動できるシーズンが増え、活動域も拡大します。熱帯性の蚊が媒介するデング熱やマラリア、チクングニア熱、マダニの媒介するSFTS(重症熱性血小板減少症候群)や日本紅斑熱などが増える可能性があります。

大雨や洪水等の異常気象が増える

水害が発生すると汚水や汚泥で衛生状態が悪化し、集団感染のリスクが高まります。

これから先、気を付けていきたいこと

虫よけ対策　：　長袖の着用、蚊取り使用、草むらは回避
食品衛生　：　冷蔵･加熱の徹底と、調理環境を清潔に
水害時　：　飲み水を確保･手指の消毒をしっかり行う

温暖化メモ

出典、参考：
国連広報センター

1997年、世界で初めて温室効果ガスの削減を国に義務づける国際ルール「京都議定書」が採択されました。地球温暖化には、農業シーズンが長くなる、暖房の使用が減る、寒冷地での移動がしやすくなるといった一時的なメリットもあります。しかし、長期的には猛暑・豪雨・海面上昇・感染症リスクの増加など、深刻な影響が予想されます。島の暮らしは人口や資源が限られているため、1人1人の行動が地域全体に直結します。**都会では目立たない小さな工夫も、島では大きな効果につながるのです。日々の生活の中で、できることから温暖化防止に取り組みましょう。**

島の暮らしに活かせる工夫